

保健師 最前線

健診をきっかけに

育児支援したい

宇治市
川部 芳子 さん



最初は産業保健師を目指していたという川部さん。それが養護教諭を経て、現在宇治市での担当は母子保健なので、方向は180度違うという。

「子どもと接するのはあまり得意でないと思っていたんですが、やってみるとおもしろいです。養護教諭時代の経験も、結果的に現在の仕事に活かしています。」

今年で宇治市に就職して7年目だが、近年ベテラン保健師が多く退職したこともあり、経験年数は保健師の中で中堅域になりつつある。ずっと母子保健の健診担当の係にいたが、係内でもいつの間にか古株になってしまって、と笑う。

宇治市では健診ごとに担当者がいるが、川部さんは母子健診全体のサポート役を担っている。通常業務についての相談のほか、事業計画を一緒に立てたり、健診時の医師や臨時職員とのつなぎ役にもなっている。

担当を取りまとめる難しさは日々感じているという。同じ保健師といっても、学んできた経緯や経過から、考え方もちょっとずつ違うので。

「でもみんなと年代が大体一緒なので、意見を言ってもらいやすいのかなとは感じています。健診の基準は変えずに、内容や流れなど保護者へのアプローチの仕方は、できるだけ今の時代に合ったものにしていきたいね、と話しています。」

今の乳幼児の親世代は、自分の子どもが生まれるまで身近に子どもと接する機会がなかった人がほとんど。乳児健診も、疾病の早期発見だけではなく育児支援の意味合いが強くなってきている。ほとんどの子どもと出会える健診の機会をきっかけに、困ったときはいつでも相談してきてもいいんだよ、ということを伝えたいと思っていると。

「自分達が少しお手伝いして、育児の壁を乗り越えた父母の姿を見ると、やってて良かったと感じます。母子保健の領域を外れても課題はあるでしょうけど、対応していける力をつけていってもらえればと思います。」